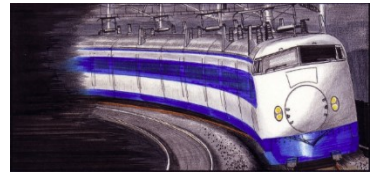


どこかで聞いたことある？「夢の超特急」



現在の東海道新幹線につながる「東京～大阪間を鉄道により 3 時間で結ぶ」構想は 1957 年の鉄道技術研究所（現 JR 総研）の講演により公にされ、1961 年には東海道新幹線が着工されたが、当時の時代風潮としては「鉄道は過去の交通機関で斜陽産業¹、これからは飛行機と自動車の時代」がほぼ通説とっていい状態下での建設であり、多分に出来ないもの・無用のものといった揶揄をこめて「夢の超特急」と呼ばれたのが最初であった。

東海道新幹線が 1964 年 10 月 1 日に開業してから、今年で 60 年を迎える。開業当時の 0 系は既に姿を消しているものの、高度経済成長、オイルショック、バブル景気と崩壊、失われた 20 年…。日本の大動脈は、分割民営化で国鉄から JR 東海に引き継がれても、ビジネスマンや旅人を乗せて激動する時代を走り続けた。

リニア新幹線は、諸問題を抱え足踏み状態の今日、時速 500 キロどころか時速 1000 キロ「ハイパーループ」という超高速列車が現実味を帯びてきていることをご存じだろうか。

ハイパーループの開発競争



カナダ・トランスフォード

- 主要都市をつなぐ 300 キロ路線
- 2035 年に時速 1000 キロを目標



ミュンヘン技術大学

- 24 メートルの試験用コンクリートチューブを製作
- 時速 800 キロを目標に



韓国建設技術研究院

- コンクリート素材のハイパーループ・チューブを開発

資料 = 各社

¹ 斜陽産業とは、生産高や売上高が過去にピークを記録して以来、現在まで低下ないしは低迷状態にあって、将来も不振が続くとみられる産業のこと

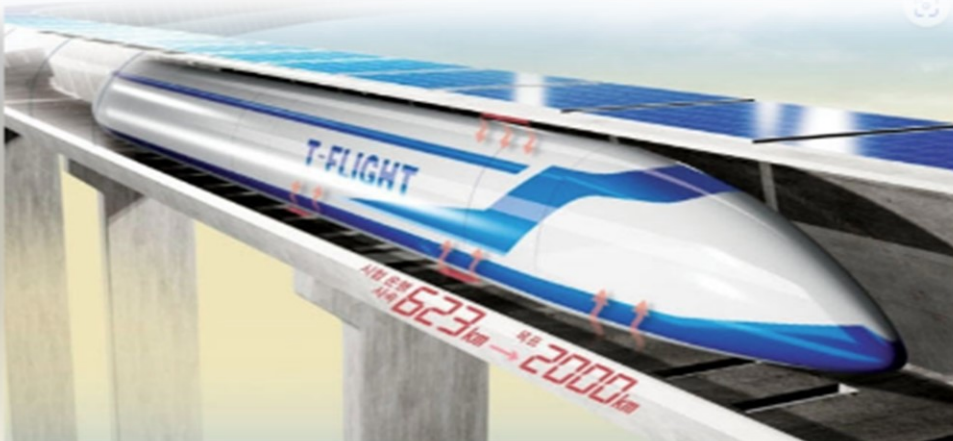
次世代の超高速輸送システム「ハイパーループ」とは？実用化向け各地で開発計

画進む | 建設テックメディア CONTECH MAG

■ 真空により空気摩擦ゼロで走行

ハイパーループは真空状態のチューブを超高速で運行できる列車だ。1910年、米国の物理学者ロバート・ゴダードが初めて提案したこの概念は、テスラの最高経営責任者（CEO）であるイーロン・マスクが開発に乗り出し、注目を集めた。

ハイパーループにより、長い距離を飛行機よりも速く往来し交流できる新しい時代の幕開けが近づいているのかもしれない。もちろん、安全第一であることは言うまでもないが・・・



時速1000キロでソウル-釜山間20分...夢の列車「ハイパーループ」が現実味
© 朝日新聞 提供

東海道新幹線「夢の超特急」誕生の全記録 (youtube.com)

☆彡 歴史を紐解いてみよう♥



1964年10月1日、「夢の超特急」と呼ばれた東海道新幹線が開業した。東京駅で行われた「0号1号」の出発式

開業時の写真